
JAグループ広島営農通信

今回紹介する内容

■ 米穀情報

米穀情勢 平成 30 / 31 年の主食用米等の需給見通しについて
JAグループ米穀事業における具体的な取り組みについて
ひろしま米の広報・PR活動について

■ 園芸情報

園芸情勢 青果物の販売経過および情勢見通しについて
青果物の広報・PR活動について

■ 営農情報（肥料・農薬情報）

高温による水稻の品質低下と来年に向けた対策について
刈り後の除草対策について

■ 農機情報

コスト削減に向けた「共同購入トラクター」について

■ トピックス

平成 30 年度担い手アグリサミットの開催（ご案内）



お問合せ先は下記までお願いします

営農支援室（電話 082-847-4706）

改革推進課（電話 082-847-4701）

米 穀 情 勢

1. 平成30/31年の主食用米等の需給見通しについて

農林水産省は食糧部会において「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（29年11月公表、30年3月一部変更、30年7月一部変更）を公表し、29/30年主食用米等需要量を740万トン、30年6月末民間在庫量を190万トンとする需給見通しを示しました。

また、平成30年産主食用米等生産量は735万トンに設定され、全国の需要実績を用いてトレンドで算出された30/31年主食用米等需要量は741万トンとされたことから、31年6月末民間在庫量は184万トン（30年3月の指針180万トンから4万トン修正）と見通されています。

一方、平成30年産米の生産・需要動向次第では持越在庫が膨らむことも想定され、特に主食用米等需要量は直近の減少値14万トンを用いて再計算（29/30年主食用米等需要量740万トン－14万トン＝30/31年主食用米等需要量726万トン）すると、平成30年産米の作柄次第では、平成31年6月末民間在庫量は米価が下落に転じるとされる200万トン水準となる可能性が考えられます。

○需給見通しについて（JA全農ひろしま推計）

単位：万トン

項 目		国の 基本指針 (H30.7)	全農試算		
			(作況100)	(作況102)	(作況98)
29年6月末民間在庫量	A	199	199	199	199
29年産主食用米等生産量	B	731	731	731	731
29/30年主食用米等供給量計	C=A+B	930	930	930	930
29/30年主食用米等需要量	D	740	740	740	740
30年6月末民間在庫量	E=C-D	190	190	190	190
30年産主食用米等生産量	F	735	735	750	720
30/31年主食用米等供給量計	G=E+F	925	925	940	910
30/31年主食用米等需要量	H	741	726	726	726
31年6月末民間在庫量	I=G-H	184	199	214	184

※ラウンドの関係で内訳と計が一致しない場合がある。

出典：米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（平成30年7月）（農林水産省）を基に作成

http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/shishin300727/sisin_300727.html

○農林水産統計 平成30年産水稻の8月15日現在における作柄概況

早場地帯の作柄：総じて「平年並み」又は「やや良」、北海道は「不良」

遅場地帯の生育：「平年並み」又は「やや良」の見込み

広島県の生育：「平年並み」。南部が「やや不良」、北部が「平年並み」

2. J Aグループ米穀事業における具体的な取り組みについて

○需要に応じた米の計画生産・計画販売

- ・生産現場に対し、需要に基づく生産提案を行います。
- ・J Aで生産・集荷・販売計画を取りまとめ、生産・販売推進を行います。
- ・少量の原料（玄米1袋）から製造可能なパールライス工場新精米ラインを活用し、精米H A C C P規格に基づく食品安全衛生管理・品質管理のもと、地域の特色ある商品開発や、J Aの結び米商品の取扱拡大を行います。
- ・中食・外食向けへの長期安定的な契約販売を目的とした多収性品種の生産提案を行います。

○実需者との契約に基づく買取への移行

- ・計画生産を基盤とした買取の推進により長期安定的契約取引を実現し、確実に販売まで結び付けを行います。
- ・手取りの早期確定（出来秋一括払い）を行い、経営安定化につなげます。

○実需者への直接販売

- ・J Aと全農で「J A米販売専門チーム」を結成し、販売推進を行います。

3. 広島県産米「恋の予感」S T U 4 8コラボオリジナルパッケージの発売について

J A全農ひろしまでは、広島県生まれのお米「恋の予感」の、AKB 4 8姉妹アイドルグループ「S T U 4 8」とのコラボオリジナルパッケージを数量限定で広島県内の量販店を中心に、9月下旬より数量限定で発売を行います。

2 0 1 6年に新たに品種登録された「恋の予感」は、粒が大きく、食べた時の粒感が特徴です。白いご飯ではもちろんのこと、焼飯や丼物などにも相性の良いお米です。名前の由来には、ひとたび食べると恋するときめきや情熱が溢れ出てくるようなお米になって欲しいという期待が込められています。

この「恋の予感」を、県内のより多くの方に知って食べていただくきっかけとして、今回「S T U 4 8コラボオリジナルパッケージ」を制作いたしました。

J A全農ひろしまでは「恋の予感」の認知度向上の取り組みとあわせ、瀬戸内エリアを中心とした更なる生産振興、販売拡大につとめてまいります



STU
48



お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 米穀総合課 082-431-5450

青果物 平成30年8月の販売経過

8月の天候は、月平均気温が東・西日本でかなり高くなりました。西日本では、降水量がかなり少なく日照時間がかなり多くなりました。例年にない記録的な猛暑日が続きました。

そのような中、広島県本部の青果物の取扱状況は、平成30年8月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量5,969t（前年比92%）、販売金額2,093百万円（同103%）となりました。また、単価については350円（同112%）となり、累計ベースでは数量減、単価高での推移をしています。

■全農広島県本部の販売状況（平成30年4月～平成30年8月累計）

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	5,969	92%	2,093,449	103%	350	112%
トマト	1,771	97%	560,602	111%	316	114%
青ねぎ	824	100%	453,472	114%	550	114%
アスパラガス	255	102%	310,511	106%	1,219	105%
ほうれんそう	254	91%	134,937	87%	530	95%
小松菜	448	99%	109,638	104%	244	105%
きゅうり	456	102%	104,894	112%	230	110%
ミニとまと	100	81%	61,212	104%	612	130%
だいこん	637	94%	59,620	119%	93	127%
わけぎ	105	80%	58,908	66%	562	83%
なす	132	68%	39,812	99%	301	147%
豌豆	32	800%	33,653	952%	1,061	123%
キャベツ	321	71%	19,936	89%	62	127%
ジャンボピーマン	65	84%	19,930	96%	307	115%
ばれいしょ	203	135%	19,851	73%	97	54%
青梗菜	65	107%	18,938	97%	289	89%
その他葉茎菜類	43	83%	18,663	80%	432	96%
南瓜	94	65%	17,523	78%	186	120%
きぬさや豌豆	7	100%	10,779	100%	1,595	110%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

◆ 8月単月の概況

【数 量】

- ばれいしょ（167%）、ちんげんさい（113%）、きゅうり（108%）は、前年度の単月を上回る出荷数量でした。 ※（ ）は前年度比。
- 葉物野菜を中心に、7月の豪雨と8月の高温の影響により、出荷量は低調に推移しました。
- 特にわけぎ（50%）、ほうれんそう（82%）は前年単月比で著しく減少しています。また、果菜類のピーマン（35%）、ミニトマト（69%）、なす（84%）も出荷量は低調でした。
※（ ）は前年度比。
- 8月単月の総出荷量は1,541 t となり、前年比89%と昨年を大きく下回っています。

【金額・単価】

- 8月単月で全体の平均単価は376円/kgとなり、前月309円/kg よりも平均単価は上昇しております。
- 8月単月の出荷量は前年と比較し、192トン減少しました。内容としては葉物野菜を中心に減少しましたが、キャベツ、南瓜、大根などの重量野菜も低調でした。また、単月の販売金額は580,846千円（前年比106%）で終了しました。

◆ 9月見通し

（1）入荷量の見通し（対象：広島市中央卸売市場）

9月の主要野菜（15品目）の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、白ねぎの1品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、ほうれんそう、青ねぎ、レタス、きゅうり、トマト、ピーマン、ばれいしょ、さといも、たまねぎの各12品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、キャベツ、なすの2品目です。

（2）卸売価格の見通し（対象：広島市中央卸売市場）

9月の主要野菜（15品目）の卸売価格は、平年を下回る水準と見込めます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、ほうれんそう、白ねぎ、トマトの3品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、レタス、なす、ばれいしょ、さといも、たまねぎの9品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、青ねぎ、きゅうり、ピーマンの3品目です。

○品目別の入荷量、卸売価格の見通し

品 目	9月の入荷量		9月の卸売価格		(参考) 前年9月の主産県シェア (%)
	平年比較	(参考) 前年比較	平年比較	(参考) 前月比較	
だ い こ ん	▼	▼	▼	▼	北海道(59) 広島(18) 青森(11)
に ん じ ん	▼	▼	▼	▼	北海道(98)
は く さ い	▼	▼	▼	▼	長野(85) 北海道(9)
キャベツ	=	△	▼	▼	群馬(70) 長野(15)
ほうれんそう	▼	▼	△	▼	広島(79) 長野(8)
青ねぎ	▼	=	=	▼	広島(53) 北海道(21) 鳥取(6)
白ねぎ	△	=	△	▼	鳥取(41) 北海道(20) 広島(19) 長野(10)
レタス	▼	=	▼	△	長野(86) 北海道(8)
きゅうり	▼	=	=	=	佐賀(25) 熊本(21) 宮崎(16) 北海道(10)
なす	=	=	▼	=	広島(32) 熊本(18) 佐賀(16) 島根(13)
トマト(ミニトマトを除く)	▼	▼	△	△	広島(53) 島根(16) 熊本(13)
ピーマン	▼	▼	=	▼	大分(46) 輸入(14) 広島(13) 宮崎(11)
ばれいしょ	▼	▼	▼	=	北海道(95)
さといも	▼	=	▼	▼	愛媛(51) 宮崎(43)
たまねぎ	▼	▼	▼	▼	北海道(97)
品 目 計	▼	▼	▼	▼	

注：「平年」とは、直近5か年の平均値である。

※この資料の内容は平成30年8月28日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得ます。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは平成30年8月31日中四国農政局園芸特産課の発表内容によります。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品 目	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬		8月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	270	85%	243	103%	311	110%	281	88%	221	70%	246	78%	222	77%	230	106%
にんじん	221	94%	227	89%	214	99%	138	71%	129	72%	153	83%	195	94%	131	66%
はくさい	192	109%	203	103%	190	110%	160	100%	155	103%	143	91%	190	128%	147	94%
キャベツ	575	96%	499	88%	596	109%	418	70%	492	89%	510	91%	464	86%	424	86%
ほうれんそう	44	108%	46	113%	49	142%	30	104%	18	88%	17	88%	12	73%	9	78%
青ねぎ	48	91%	49	98%	54	117%	30	62%	44	89%	39	79%	40	80%	36	81%
白ねぎ	23	89%	25	89%	31	123%	17	66%	27	97%	31	104%	28	103%	20	81%
レタス	211	98%	218	83%	224	89%	167	71%	211	93%	180	70%	226	90%	201	78%
きゅうり	249	91%	244	96%	265	135%	143	89%	135	82%	182	91%	180	97%	161	94%
なす	105	82%	96	68%	141	113%	118	89%	97	74%	107	86%	93	80%	105	97%
トマト(ミニトマトを除く)	212	279%	184	217%	164	91%	126	81%	112	89%	144	93%	134	80%	157	108%
ミニトマト	61	107%	56	107%	56	113%	35	90%	31	80%	36	93%	35	89%	29	79%
ピーマン	59	70%	62	77%	61	93%	54	89%	49	80%	48	76%	52	93%	31	67%
ばれいしょ	241	71%	274	90%	296	137%	144	95%	119	101%	160	120%	125	72%	119	71%
さといも	5	69%	4	58%	4	72%	4	71%	4	60%	4	52%	8	96%	6	65%
たまねぎ	228	71%	330	122%	304	125%	227	97%	287	113%	295	118%	261	115%	251	98%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：円/kg

品 目	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬		8月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	67	118%	87	99%	80	92%	73	89%	113	130%	133	166%	131	154%	126	101%
にんじん	70	59%	76	62%	81	69%	119	113%	215	168%	201	130%	135	90%	134	105%
はくさい	78	97%	81	86%	85	100%	77	100%	77	105%	111	133%	173	195%	132	110%
キャベツ	68	90%	83	98%	88	97%	83	108%	84	112%	144	166%	129	163%	111	106%
ほうれんそう	448	96%	534	97%	508	92%	601	92%	1,000	139%	870	126%	949	131%	1,119	105%
青ねぎ	410	101%	414	92%	406	89%	432	90%	666	123%	750	133%	860	155%	800	126%
白ねぎ	505	125%	436	110%	356	92%	355	95%	445	113%	323	94%	365	114%	491	120%
レタス	142	90%	124	84%	144	107%	127	77%	155	84%	283	167%	154	92%	134	69%
きゅうり	193	95%	204	96%	210	98%	227	97%	576	241%	325	155%	345	153%	412	124%
なす	329	103%	354	115%	324	111%	284	103%	343	123%	364	138%	381	153%	294	116%
トマト(ミニトマトを除く)	232	93%	256	91%	301	103%	314	110%	307	105%	327	132%	346	147%	363	147%
ミニトマト	368	77%	367	78%	455	93%	589	107%	771	122%	745	134%	764	144%	800	143%
ピーマン	303	122%	326	109%	425	123%	459	125%	470	126%	515	174%	522	189%	616	202%
ばれいしょ	118	74%	87	52%	78	44%	101	52%	100	53%	88	51%	101	65%	130	90%
さといも	460	100%	533	133%	582	140%	485	109%	455	116%	379	113%	355	106%	351	93%
たまねぎ	87	75%	77	68%	78	65%	94	72%	101	78%	93	72%	113	81%	114	86%

イベント・広報活動情報

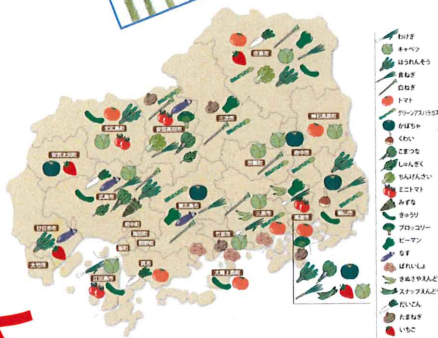


県内外の量販店にて旬な野菜と
産地PRを実施しました！



やさいの日（8月31日）のPRを
通じて野菜をもっと食べてもらう企画

産地・野菜をPRするグッツリニューアルしました！
宣伝や商談会でドンドン使用していきます！！



高温による水稻の品質低下と来年に向けた対策

今年の7～8月にかけての異常な高温によって白未熟粒などが多発し、米の検査等級が低下することが懸念されます。2013年作も同様の高温障害により品質が低下し、一等米比率が低下しました(表1)。

米の検査では、「形質」という検査項目で評価する内容に「心白」「腹白の程度」があり、該当する米には、乳白粒、心白粒、腹白粒、背白粒、基部未熟粒(基白粒)が含まれ、まとめて「白未熟粒」と呼ばれます(図1)。したがって、乳白米は白未熟粒の1つのタイプです。

いずれも、胚乳の各部位におけるデンプンの蓄積がうまくいかずに、空洞があるために透明でなく白濁してみえるのです。検査結果では、等級の下がった原因として「心白・腹白」と一括され表示されます。

今回は、高温障害の代表的な障害である白未熟粒の発生のメカニズムとその対策について説明します。

表1 広島県のコシヒカリの1等米比率の推移

1等米比率(%)	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
コシヒカリ	64.1	84.7	89.0	85.7	84.1

(参照；農林水産省「米の検査結果」)

※2017年結果は速報値



図1 整粒と高温障害で生じやすい白未熟粒の概観

(参照：全農グリーンレポート No.558)

1. 乳白米などの白未熟粒が発生する原因

図2は、胚乳へデンプンが詰まっていく過程を示しています。登熟の初期には胚乳の中心部からデンプンが蓄積し、次いで周辺部、背部、基部へと進みます。

前述した各種の白未熟粒の白濁部位の違いには、胚乳にデンプンが詰まっていくどの時期でデンプンの合成や光合成産物の転流が阻害を受けたかが関係しています。中心部に白濁がある「乳白粒」では登熟初中期に、「背白粒」「基白粒」では登熟後期のデンプン蓄積に異常があったと推定されます。

高温の影響は、デンプン蓄積に異常があった時期だけではなく、登熟の初中期から現れます。白未熟粒の発生が高温で増加する原因には、①胚乳におけるデンプン合成の原料となる糖(光合成産物)の供給能力の不足と、②胚乳が糖を受け入れてデンプンを合成する能力の低下があります。白未熟粒等のタイプ別の発生要因については表2のとおりです。

表2 白未熟粒などの発生を助長する要因 (もっと使える施肥・土づくり Q&A「水稻の乳白米対策」(全農)を加筆)

	白未熟粒の種類					胴割粒
	乳白粒	心白粒	腹白粒	背白粒	基白粒	
気象要因	○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上) ○日照不足	○登熟初中期の高温		○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上)	○登熟初中期の高温 (平均気温26～27℃以上)	○登熟初期の高温 (平均最高気温33℃以上)
栽培要因	○収数の過剰と倒伏		○登熟期間の窒素栄養状態の凋落(デンプン合成酵素活性の凋落、光合成産物の転流機能の低下などを引き起こす)			○登熟期間の窒素栄養状態の凋落

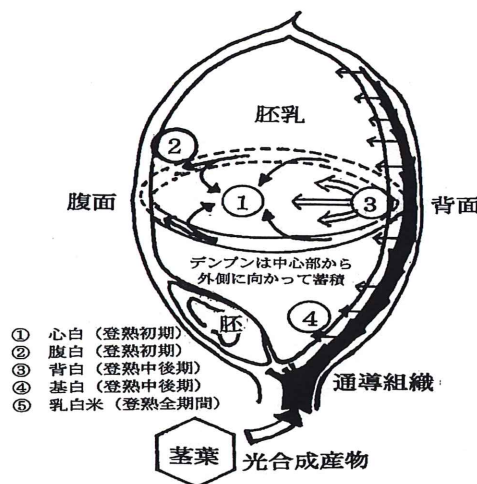


図2 登熟期に胚乳にデンプンが詰まる順序と

白未熟粒の発生部位

(星川清親(1975)に加筆して作成)

また、表3に出穂後 20 日間の平均気温を示していますが、高温障害による品質低下が多発した 2013 年は 27.9℃、今年も 26.7℃と、高温障害の目安となる 26℃以上よりいずれも高くなっています。

表3 東広島市における出穂後 20 日間の平均気温
(コシヒカリの出穂日を7月31日とした場合)

	出穂後20日間の平均気温(℃)		
	平年	2013年	2018年
コシヒカリ	25.9	27.9	26.7

2. 高温障害対策について ～来年にむけてケイ酸をたっぷり補給～

水稻はケイ酸を多く吸収する作物で、600kg/10a の玄米収量を得ていれば、水稻は 10a 当たり**ケイ酸を 120kg/10a も吸収**します。そのため、土壌中の有効態ケイ酸の量が重要です。

米の品質とケイ酸資材の施用の関係を整理すると次のようになります。

- ① ケイ酸の施用は、稲の葉を直立させて受光体勢を良くして、光合成能を高める。また、耐倒伏性を高め、倒伏による光合成能の低下を避ける。
- ② 光合成能が高まり、**乳白粒が減少** (図3、4)。
- ③ 光合成能が高まり、登熟歩合が高くなり、結果的に玄米タンパク濃度が低下し、食味向上。

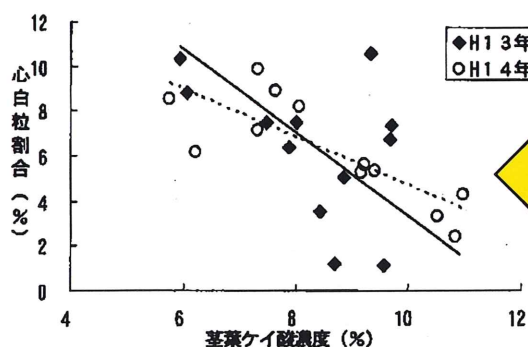


図3 成熟期茎葉ケイ酸濃度と心白粒割合
(富山県農技センター2003)

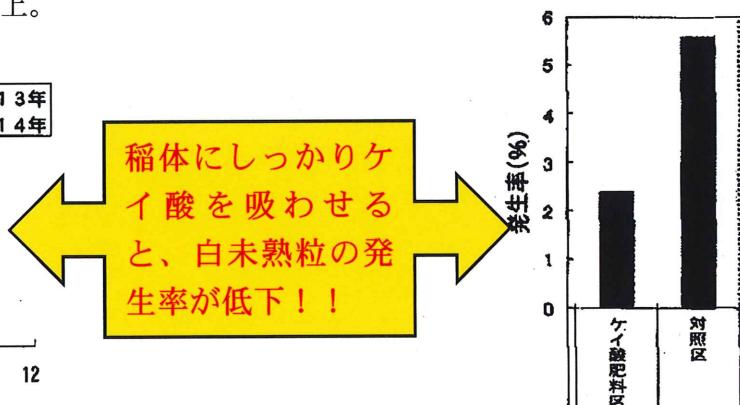


図4 高温登熟条件化の乳白粒の発生とケイ酸肥料の効果(土づくりとエコ農業 2011 参照)

夏場の高温による品質低下を防止・軽減させる基本技術としては、従来からの「ケイカル」、「ミネラル G」などを10a当り200kg程度(土壌や地域により施用量は異なる)継続的に施用しておき、異常気象時に備えておくことが重要です。散布時期としては、出来秋から春先までの間でこの期間であればケイ酸効果の違いはほとんどありません。

また、高温による障害を軽減する応急的な対策として、溶出の速度が速く溶出量も多い吸収効率の良いケイ酸質肥料を使用するという手段があり、次の肥料が代表的なものになります(表4)。

表4 吸収効率のよいケイ酸質肥料

※Si ケイ酸、P リン酸、K 加里、Mg 苦土、B ホウ素、Al アルカリ、Fe 鉄

品名	規格 (kg)	施肥量 (kg/10a)	特徴
けい酸加里プレミア34	20	追肥 40 基肥 60	ケイ酸だけでなく副成分として含まれる加里と合わさって登熟を良好にする
シリカサポート1号	20	追肥 70 基肥 100	黄りんさいに由来するケイ酸が主原料鉄を含むので鉄不足圃場にも適する



ノビエやクログワイでお困りではなかったですか？～刈り後の除草対策～

(ラウンドアップマックスロード、プリグロックスL、石灰窒素による秋からできる翌年の抑草対策)

水稻も収穫の時期を迎えていることと思います。収穫で忙しい最中ではありますが、次年度の作付けに向け、雑草対策の観点からも重要な時期になります。水田の雑草は一年生雑草や多年生雑草など様々ですが、特に問題となりやすいノビエ(一年生イネ科雑草)とクログワイ(多年生雑草)については、収穫後の適切な管理によって次年の発生が減少することが知られています。

今回は、これらの雑草に対する適切な管理方法をご紹介しますので、今年ノビエやクログワイの発生が多かった圃場では対策に取り組んでください。



写真1. タイヌビエ
1年草、生育期間5～10月。水田にはえる最も一般的な強害草。種子繁殖。種子はイネの刈取前に脱粒、落下する。



写真2. クログワイ
多年草、成長期間6～11月、難防除雑草の一つ。塊茎で繁殖。夏から秋に翌年の繁殖源になる塊茎を地下茎の先につくる。

1. 稲刈り後のノビエ対策

(1) プリグロックスLを活用した対策

プリグロックスLは、**イネ科植物に対し『種子発芽後枯殺効果』**があるため、プリグロックスLの付着した種子は**発芽時に芽が枯れてしまいます**。



メヒシバ

試験方法

所定濃度の希釈液に雑草種子を3秒間浸漬し、直ちに種子をろ紙上に移して風乾。乾燥後、湿ろ紙を敷いたシャーレに種子を置床して温度25℃・湿度60%の条件下にて管理。

試験結果 (処理7日後)



図1. プリグロックスL付着による発芽抑制(枯殺効果):メーカー試験結果

★上手な使い方(効果を高めるためにはノビエ種子にしっかり付着させることが重要)

- ① 収穫後、**秋の耕起前にプリグロックスL 1%を 100%の水に希釈し、10aに散布**する。
- ② 散布圧を調整できる場合は、散布圧を最大にする(飛散には気を付ける)。
- ③ 稲わらが多すぎる場合は**朝露や雨後など、稲わらが濡れているときに散布した方が隠れた雑草本体や種子に付着しやすい**。

※翌年の田植え後は、通常通り水稻除草剤を使用し、水管理を徹底すること。

(2) 石灰窒素を活用した対策

土づくりで知られる石灰窒素ですが、収穫後の秋散布によりノビエに対する防除効果を発揮することが知られています。ノビエの種子は、自然状態では越冬しないと発芽しませんが、**石灰窒素の主成分“シアナミド”はノビエの休眠を覚醒させる効果**があります。この作用を利用して**秋に発芽させ、冬の低温で枯死させます**。これにより、圃場内のノビエ種子の密度を低下させ、翌年の発生を軽減させることができます。



無処理



石灰窒素 20 kg/10a



石灰窒素 40 kg/10a

ノビエ

☞試験方法

ノビエの種子を播種（H28.9.9）後、石灰窒素を所定量（0 kg、20 kg、40kg）散布し経過観察。

☞試験結果（処理 40 日後）発芽したノビエは冬の低温で枯死した。

図2. 石灰窒素散布によるノビエ種子休眠打破（発芽促進効果）：JA全農ひろしま試験結果

★上手な使い方（効果を高めるためには水分と温度が重要）

- ① 稲刈り後1週間以内に**石灰窒素を40～50kg/10a全面散布**する。
- ② 発芽には**平均気温18℃以上の日が15日以上続くこと**と、**十分な土壤水分**が必要。（シアナミドの拡散と浸透）
- ③ 乾田では**降雨後など水分がある状態で散布**することで高い効果が期待できる。

【ワポイント】圃場内にノビエが偏在する場合、多く発生した場所にスポット散布をすると、少ない施用量でも効果が期待できる

※ノビエの防除を重視する場合は、すき込まない方が効果は高まる傾向にある。稲わらの腐熟効果も同時に求める場合は、散布2週間程度経ってからすき込むこと。



稲刈り後、1週間以内に石灰窒素を全面散布



石灰窒素の主成分“シアナミド”の働いてノビエの種子が発芽



やがて冬場の低温でノビエが枯死

効果的な使用ポイント

- 1 稲刈り後の秋に散布すること
 - 2 散布後平均温度18℃以上を15日以上保てること
 - 3 発芽できる程度の土壤水分があること
- ラクラク!! 稲刈り後の全面散布で冬の間にノビエ退治!!

2. 稲刈り後のクログワイ対策

(1) ラウンドアップマックスロードを活用した対策

稲刈り後、クログワイが再生してきたところに50倍液を散布します。浸透移行性(根まで枯らす)を使用することで、クログワイの塊茎にダメージを与え翌年の発生を軽減することができます。

★上手な使い方(継続して取り組むことで効果が高まる)

■ 収穫時期が早くしかも温暖で、クログワイの再生が見込める地域

■ 収穫時期が遅くしかも低温でクログワイの再生が緩慢な地域

● クログワイの緑色の茎葉部(20cm以上を確保)に十分散布してください。(刈取り時に稲わらを持ち出すことをお薦めします。)

● 十分な草丈がない場合は、丁寧な散布を心がけてください。

* 高刈りの高さは品種等によって、違う場合があります。20cm位はあくまでも目安です。

① 10月中旬までに散布する。(なるべく気温の高い時期使用する。気温9℃以上は確保。)

② 数年間は連続して防除に取り組む。(連続して使用することで塊茎を減らすことができる)

③ 散布後10日間は耕起や刈り払いをしない。(葉から塊茎に成分を移行させる)

(2) 新情報！ラウンドアップマックスロードに新たな省力散布方法登場！！

ラウンドアップマックスロード専用として新開発された《ラウンドノズル®ULV5》により、わずか5ℓの水量で10a 散布が可能となりました。今までと同じ面積を散布する場合には、**背負う水量が圧倒的に軽く、とても『楽』に散布できます。**また、一度の給水でより**広い面積を散布**でき、除草作業の大幅な省力化が可能です。

NEW!

ULV5によって変わる、新しい少水量散布！

背負う水量が軽い

例：10a散布での重さの比較

※20ℓタンク背負動機による通常散布
100ℓ/10aとの比較。高剤の重量は除く

今までと同じ面積で比べると、背負い式噴霧器で散布する場合に背負う水量が圧倒的に軽く、とても"楽に"散布できます。背負う重量は約1/10で済みます。

29kg x 5
トータル 145kg
100ℓ/10a
背負い動機約9kg + 20ℓ = 29kg
20ℓでの散布面積が2aなので5回の給水が必要です。
× 給水 5回

14kg
わずか 14kg
ULV5 5ℓ/10a
背負い動機約9kg + 5ℓ = 14kg
5ℓで散布面積10aなので1回で済みます。

圧倒的に
軽い

給水作業の手間が省ける

例：10a散布する際の比較

※20ℓタンク背負動機による通常散布100ℓ/10aとの比較

給水回数と希釈液の準備作業の手間が従来の1/5回で済みます。

100ℓ/10a
20ℓ満タンで
5回も給水

ULV5 5ℓ/10a
20ℓタンク1/4に
1回の給水

作業の手間が
省ける

図3. ラウンドノズルULV5による除草作業の省力化：日産化学工業(株)資料より

※農薬の使用に当たっては登録内容をよくご確認の上、適正な使用をお願いいたします。

12

農業機械情報

共同購入トラクター

コスト削減へヤンマー製に決定！！

- ◆JA全農は、生産資材費低減の一環として現場の声を反映した低価格モデルトラクターの開発をメーカーに要請し、ヤンマーアグリ㈱の『YT357JZUQH』を共同購入する60馬力トラクタとして決定しました。

＜JAグループ 共同購入トラクタ＞

型式:YT357J, ZUQH (製造元:ヤンマーアグリ㈱)

※メーカー希望小売価格 534万円(税別)

※上記のメーカー希望小売価格は、トラクター単体(ロータリーなし)の価格となります。

共同購入機の特徴

- ・生産現場の声を反映した必要とする機能を装備
- ・60PSクラスでは、パワーにゆとりのあるエンジン(3.3ℓ)を搭載
- ・概ね、1日無給油で作業できる燃料タンクを搭載

◆この取り組みは、

- ①1,000台の購入目標を掲げ、機能を絞り込むことでメーカーの製造コストの削減がはかられたこと。
- ②JAグループが全国の生産者に結集を呼びかけ、積上げた台数を背景に全農がスケールメリットを生かし入札を行ったこと。
上記により、標準的な4社の同クラスと比較し、概ね2～3割の価格引下げを実現しました。

＜共同購入とは＞

JAグループで生産者の需要をとりまとめ、全農が生産者の代理人として一括発注・仕入を行うことで、メーカーは製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元する取り組みです。

詳細、価格は、お近くのJA農機センターまでお問合せ下さい。

- ◆ 共同購入トラクターは、ご注文いただいてから、納品まで3ヶ月程度かかります。
- ◆ ロータリーとセットでの購入も可能です。

生産者×JA 全国一万人の声を反映 共同購入トラクタ 誕生!

排気量 **3.3_L**
60馬力

型式 YT357J,ZUQH

メーカー希望小売価格 **534万円(税別)**

共同購入は、JAグループで生産者の需要をとりまとめ、全農が生産者の代理人として一括発注・仕入を行うことで、メーカーは製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元する取組みです。



(共同購入トラクタの主な機能)

- POINT 01 小回りができる **倍速ターン** POINT 02 わずらわしい操作が不要な **オートブレーキ** POINT 03 均一な圃場に仕上げる **自動水平制御 自動耕深制御**

- POINT 04 様々な作業機が使える **前・後進16段** POINT 05 給油なしで概ね1日作業可能な **燃料タンク56L**



型式	YT357J,ZUQH(製造元:ヤンマー/国産)
駆動方式	パートタイム4WD
全長×全幅×全高(mm)	3,400×1,540×2,325
地上最高速(mm)	44.8
機体質量(kg)	2,092
形式名	4TNV98C
種類	水冷4サイクル4気筒直噴エコディーゼル
出力(PS/gpm)・耕耕量(L)	60/2,500(クロス), 57/2,500(キット)-3.318
燃料タンク容量(L)	56
その他	排ガス規制対応
タイヤ	前輪 8.3-20 後輪 13.6-28
軸距(mm)	1,965
軸距(mm)	1,195~1,375(4段)
軸距(mm)	1,145~1,535(12段)
変速段数(段)	前進16段、後進16段
走行速度(km/h)	前進 0.20~28.8 後進 0.20以下
最小旋回半径(m)	2.7
回転速度 正転/逆転(gpm)	565,790,1,004 / 704
軸径	JIS 35(6スプライン)
制御方式	メカオートコントロール(ドラフトコントロールをオプション設定)
駆動方式	3点リンクJIS1型
油圧能力(kgf)	1,700
駆動装置	自動水平制御・自動耕深制御・倍速ターン・オートブレーキ
運転装置	エアコン付キャビン・デラックスシート・大型サイドミラー・ワークランプ・ホイルハンドル

JAグループ
からのお願い

ご注文いただいてから納品まで3か月程度かかります
納品開始は2018年10月からになります!
共同購入取組み期間(2018年7月から2020年11月)までにご注文をお願い致します。

お問い合わせは
最寄りのJAまで

JAグループ/ 全農

最新技術、
最新情報を
お届けします！

農業者の皆さまのご来場を
心よりお待ちしております♪

担い手 アグリサミット

- ◆新しい生産資材の紹介
- ◆農業機械実演
- ◆農業ICTの紹介

など、JAグループがおすすめする
営農に役立つ情報をご提案します。



ブース展示



ドローン実演



農機の展示・実演



研修会、ミニセミナーも開催！

天候や主催者の都合により、展示内容が変更となる場合があります。

会場MAP



とき

平成30年
11月7日(水) - 8日(木)
9:30 - 16:00

場所

JA西日本営農技術センター
東広島市河内町入野 11631-13

お問い合わせはお近くのJAまで